

商品価値 稲ワラよりも安い

地力を たかめ

土壤病害線虫の防除が
できる

SanBark

リグノフミン

活性堆肥

P

正味20kg 樹脂袋詰

そ菜の ハウス栽培において リグノフミンが
果たす 役割を ご存知ですか？

質問1 …… 土壤溶液の濃度障害が 生じにくくなるのは
何故でしょう？

【答え】 リグノフミンは床土の塩基置換容量を大きくし、肥料分を吸着する力を強めて 土壤溶液が急激に濃くなることを防ぎますので 作物は濃度障害をまねがれ 健全に生育します。
また リグノフミンは耐久腐植に富むため、土壤は保水性だけでなく 通水性をも増すので、過剰な肥料分は灌水などととも流されやすくなり 塩類集積の害作用が生じにくくなります。

質問2 …… 連作障害も少くなるといわれるのは 何故でしょう？

【答え】 リグノフミンを施用すると 土壤中の微生物的平衡度が高まる結果 連作による病虫害の増加傾向が抑制され 土壤伝染病菌やネマトード（土壤線虫）による被害が最少限にとどめられます。更に
リグノフミンは 土壤微生物の活動を促進して 前作物の残根などの腐熟消化をはやめ 有害物質の残留度を少くします。
そのほか 連作による微量要素などの欠乏症を防ぎます。

質問3 …… 悪性ガスの発生が減少するのは 何故でしょう？

【答え】 ハウス内でのガス発生は 肥培管理が十分でなく
床土の酸土（pH）が $\begin{cases} \text{アルカリ性に傾くと……アンモニア ガス} \\ \text{酸性に傾くと……亜硝酸ガス} \end{cases}$
が発生しがちとなります。 リグノフミンは床土の緩衝能を大きくして土壌酸土（pH）の急変をおこさぬように働きますので 悪性ガスの発生が抑制されます。

活性堆肥 **リグノフミン** の特長

① 土壌改良の効果が いちじるしく強い

リグノフミン は本質的に 昔から農家でつくられた良質な 完熟堆肥そのものです。その上、**リグニン腐植の含有量が増強**されていますので 土中の深部へ強い浸透性を持ち 地力をたかめ **効果は5～6年間持続します。**

② 土壌病害線虫の防除に 永続的な効果がある

リグノフミン を施用すると 線虫汚染土壌をも浄化し **根こぶ線虫** や **根ぐされ線虫** が防除できます。また **立枯病** や **炭素病** の発生が著しく減少し **紋羽病** の罹病率もぐんと減ります。

③ 悪性ガスの発生がまったくない

リグノフミン は 完熟・活性堆肥でありますから ハウス内でのガスの発生もなく、どんな作物にも安心して施用できます。

多量に施用しても全く心配ありません。

④ **リグノフミン** の成分内容 (乾物%, pH:7.1)

有機物	フミン酸	チッソ	リンサン	カリ	石灰	苦土
%	%	%	%	%	%	%
70.18	11.12	1.18	1.90	1.10	5.70	1.39
珪酸	酸化鉄	ほう素	マンガン	モリブデン	銅	亜鉛
%	%	%	%	%	ppm	ppm
3.68	2.22	0.28	0.30	0.012	6.2	21.0

リグノフミン の施用基準

I 苗床における施用法

① 蒔き床

リグノフミンをトロ箱などに均一にしてから種子を蒔いて下さい。
種子が隠れる程度に土又は砂を覆土して下さい。

② 鉢土の場合

リグノフミン〔1容〕： 原野土〔1容〕の割合いで混和するのが理想的です。混和して1～2週間くらい置いてから播種又は植付けると好結果がえられますが、混和直後でも差支えありません。

③ 平床の場合

リグノフミン標準施用量は、3.3㎡(1坪) 当り60kg(3袋) で土とよく混ぜ合わせて播種又は植付をして下さい。

(注意) 肥料は各作物による基準にしたがって下さい。

II 本圃(ハウス栽培)における施用法

- ① 10a当り リグノフミン 1,000 kg～2,000kg (50～100袋) を圃場に、全面撒布して土壌とよく混ぜ合わせて下さい。
定植の1～2週間くらい前迄に施用することが好ましいことですが、直前でも差支えありません。

- ② 土壌病害線虫(ネマトーダ)等の防除に、薬剤(クロルピクリン)等を使用する場合は、その薬剤のガス抜きをしたのちに、リグノフミンを施用すると薬剤の効果もたかまります。



2.5kg 施肥区
10a当り 3,000kg

リグノフミン区
10a当り 750kg